

枝枯病（トドマツ）

多雪地域の幼齢造林地に発生。春先，1年生枝で緑のまま落葉が起こり，細い枝では枝枯れ症状，太い枝や1年生幹では胴枯症状が生じる。

病斑が幹を一周するとそこから上部が枯死する。病斑は6月頃まで拡大し，顕著になる。

なお，側生不定枝は特に侵されやすく，その付け根からしばしば2年生幹も罹病する。

6月頃，その年に発生した部分に黒褐色の菌体（柄子殻：雨後，柄孢子が放出され，雨滴によって近隣に飛散）が形成される。

また，前年発病した部分には黒褐色で粒状の菌体（子のう盤：雨で開き，空気に乗って遠くまで飛散する子のう孢子が放出される）が生じる。



トドマツ枝枯病激害造林地